



ひまわり通信

No.00749. 2025.12.25(木)

健康寿命から貢献寿命へ

一年間ありがとうございました。感謝！！良いお年をお迎えください。

NMN（ニコチンアミド・モノヌクレオチド）とドナリエラ・バーダウィル

●NMNとドナリエラ

今話題の若返り（抗老化）物質であるNMN（ニコチンアミド・モノヌクレオチド）は、科学的に工業生産されますが、元々は食事から摂取したビタミンB3（別名ナイアシン）の代謝産物として体内で産生できる化合物です。

摂取したNMNはNADに変換され、細胞のエネルギー代謝やDNA修復、抗酸化作用など、さまざまな重要な生理機能に関わります。NADは一般的に「ナド」と読まれ、ニコチンアミド・アデニン・ジヌクレオチドの略称です。私たちの生命活動になくてはならない多くの代謝の過程に関わっているNADですが、ひとつは、細胞内のミトコンドリアという小器官で食べ物からエネルギー（アデノシン三リン酸/ATP）を作り出すのに不可欠な役割をになっています。もうひとつは、DNAの損傷を修復したり、長寿遺伝子と呼ばれる「サーチュイン遺伝子」を活性化させることで、細胞の機能を正常に保ち、老化や病気から体を守る健康維持効果です。

このようなことから、加齢に伴う体内のNADの減少は老化だけでなく、糖尿病、動脈硬化、脂質異常、肝臓や腎臓へのダメージ、がんとの関連性、さらには、アルツハイマー病やパーキンソン病など神経性変性疾患の原因になることがいろんな研究結果から示されています。

NADの減少を補う方法NMNを補充することですが、品質や価格の面で安定していないことが今なお大きな課題となっています。

天然物である微細藻類ドナリエラにも周知のとおり同様のはたらきがありますが、NMNの商品開発よりかなり前の時点で、NMNに期待される各種の効果のほとんどすべて、ドナリエラの医薬品特許として登録されています。とりわけ、最近では、認知機能に関する神経変性疾患について、アルツハイマー病、パーキンソン病、軽度認知障害（MCI）、MCIを伴うパーキンソン病、ハンチントン病、レビー小体病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、プリオン病などの原因となる、いわゆるタンパク質のミスフォールディング（折り畳みの間違い）の予防や治療効果の研究が確認され、形になるうとしています。

※ 微細藻類「ドナリエラ・バーダウィル」を略して「ドナリエラ」と表示しています。
(健康の輪新聞 2026.1月号より抜粋)

イスラエルの赤い宝石「ドナリエラ」愛の一粒運動実施中！！

(株)日健総本社 兵庫特約店

(有)クロスタニンひまわり

☎ 0120-42-8198